

演  
題

## 「命に国境はない

## ～イラク戦争とは何だったのか?～」

# ー高遠菜穂子さんの講演決定!ー

### 高遠菜穂子さんの紹介

イラク支援ボランティア。1970年1月14日北海道千歳出身。麗澤(れいたく)大学外国語学部英語科卒。卒業後、東京で1年間の会社員生活。退職後、アメリカ黒人開放運動の田尻成芳(たじりせいほう)氏の元を訪れ、生き方を学ぶ。24歳の時に地元でカラオケボックスを開業。30歳を機に仕事を辞め、インドのマザーテレサの施設や孤児院、タイ、カンボジアのエイズホスピスでボランティアに専念する生活をスタート。2003年3月にイラク戦争が勃発し、ブッシュ大統領の「大規模戦闘終結宣言」が発表された5月1日にイラクに初入国。NGOと共に病院調査、医薬品運搬、学校再建などを行う。後半は路上生活する子どもたちの自立支援に取り組み始める。2004年4月、4回目のイラク入国の際にファルージャ近郊で地元の抵抗勢力に拘束される。同年8月より隣国ヨルダンからイラク支援を再開し、路上生活の子どもたちに「子ども自立支援プロジェクト」として就職斡旋と職業訓練プログラムの基盤作りを完成させた。現在は、難民・国内避難民のサポート、医療支援などのプロジェクトをイラク人と共に進めている。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」呼びかけ人。

### 結成6周年記念集会

2011年7月10日(日)

午後1:30(開場1:00)～4時

会場・水原保健センター

会場費・500円

講演・高遠菜穂子さん (演題 上記)

#### ◎ 高遠菜穂子さんから

#### 阿賀野市九条の会の皆さんへメッセージ

このたびはイラク報告の貴重な機会をありがとうございます。

イラク戦争から8年が経ちました。人々はいまだ命の危険にさらされ、5人に1人が難民や国内避難民となって家を失い、かつての先進国とは想像できないほど貧困に陥っています。

日本では今、原発被害が容赦なく人々に広がり、“内部被ばく”という言葉が毎日のように聞かれるようになりました。この内部被ばくにずっと晒されているのがイラクです。

難民支援、医療支援を通じて学んだこと、そして日本の姿をお伝えできたらと思っています。

お会いできることを心より楽しみにしております。

高遠 菜穂子

#### ◆ 高遠菜穂子さんの著書紹介

- ・『破壊と希望のイラク』(3/20 新刊))
- ・『イラク戦争を検証するための20の論点』(3/20 新刊)  
講演当日サインセールの予定

#### ◆ 九条を守る阿賀野の会出版の

#### 実録小説『阿賀野川』 なかむらみのる著

九条を守る阿賀野の会の活動をモデルにして描かれた小説を発売(全挿絵入り)しました。1冊1000円で、収入は会の財政に役立ちます。ぜひお読みください。販売にご協力ください。申し込みは会の事務局まで(電話 62-5203)